

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	673000675
法人名	株式会社 互惠
事業所名	コミュニティ ママ家
訪問調査日	平成 20 年 8 月 1 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 3 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	673000675		
法人名	株式会社 互惠		
事業所名	コミュニティ ママ家		
所在地 (電話番号)	山形県鶴岡市中田字追分162-2 (電話) 0235-57-5050		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年8月1日	評価確定日	平成20年10月3日

【情報提供票より】(平成20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤 14 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 15 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造瓦葺 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,900~32,200 円	その他の経費(月額)	水道光熱費24,000 円 他
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(130,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/○無
食材料費	朝食	330 円	昼食 330 円
	夕食	330 円	おやつ 110 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	10 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.9 歳	最低 64 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐久間医院、佐藤歯科医院、中村整形外科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの名前にも表れているように、地域の中で、地域を活性化させるためにはどうすればよいのか、そのためにホームが担える役割は何か、を常に考えながら事業を展開しているホームです。
また、利用者へのサービスを向上させるために職員研修にも力を入れており、利用者の思いを大切にしながら、現状に満足することなく、更に質の向上を目指す取り組みを実践しているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題はありません。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義や内容について、ユニット単位で職員が話し合いを行っている。また、課題等については各種会議で検討しながら改善に向けて取り組んでいる。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月毎に運営推進会議を開催しており、避難訓練や決算書、看取り等についての報告や話し合いを行い、それらを基に地域や行政を含めた事業の展開とサービスの向上に努めている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会があった際には家族の些細な相談にも耳を傾け、改善に向け話し合い、質の向上に努めている。また、家族会を活用して意見を出しやすいように努めている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会、運動会、小・中学校の行事などにホームから参加、出席しており、その一方でホーム行事への地域住民の参加もみられ、交流の機会が年々増えてきている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所名にもなっているようにコミュニティ(地域)の中で老若男女、世代を超えて地域の人々とともに活性化を目指す理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の職員ミーティングや毎月の主任会議、また、ユニット会議において理念についての説明と実践のための話し合いを行いながら取り組みを進めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、運動会、小・中学校の行事などにホームから参加、出席しており、その一方でホーム行事への地域住民の参加もみられ、交流の機会が年々増えてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や内容について、ユニット単位で職員が話し合いを行っている。また、課題等については各種会議で検討しながら改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催しており、避難訓練や決算書、看取り等についての報告や話し合いを行い、それらを基に地域や行政を含めた事業の展開とサービスの向上に努めている。		

山形県 コミュニティ ママ家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>日頃から話し合いや情報交換等を行いながら、連携を取っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>会社全体の通信と入居者個人の生活・健康状況報告書を、金銭管理の報告書とともに報告、説明を毎月している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会があった際には家族の些細な相談にも耳を傾け、改善に向け話し合い、質の向上に努めている。また、家族会を活用して意見を出しやすいように努めている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動が利用者への影響が少なくなるように時間をかけて引き継ぎを行っている。また、異動した職員も顔を見せたりしながら、利用者にはダメージを与えないよう配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は職員を段階に応じて育成するために内部研修等に力を入れており、外部研修にも参加している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の会員となり、交換実習や介護実技講習会の開催等を通して、交流や連携を進めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や食事の準備、片付け、畑作業に来客時のお茶だし等、その人の役割としてできることをやってもらったり、職員も利用者から教えてもらいながら一緒に過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人や家族から希望や意向を聞いたり、できない場合は、利用者本位となるように検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者の学習会を毎月開催し、本人、家族、看護師、職員等で話し合い、本人がより良く暮らせるように介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しが行われており、また、利用者の状況に変化が見られれば、随時、関係者との検討と見直しも行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	本人や家族の希望を尊重して、緊急時や往診の可否 等も確認しながらかかりつけ医を選定しており、連携を 取りながら進めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	入居時に看取りについて本人や家族の意向、ホームで できることなどについての話し合いが看護師も含めて行 われている。また、看取りの希望については医師も交え て話し合い、その方針を共有しながら支援を行うように している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	運営者や管理者は毎日のミーティング等で、利用者の 自尊心やプライバシーを尊重した対応ができるよう指導 したり講習会を開いたりしており、個人情報の取扱にも 配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先するのではなく、利用者一人ひと りのペースを尊重しながら、希望にそって支援してい る。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が準備、片付けに参加できるように調理台等を低くし、できることは一緒に行いながら楽しく食事できるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームや職員の都合ではなく、利用者の希望により日中と夜間の入浴を行っており、希望者は毎日入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「娯楽室でのビデオやカラオケ」「カウンター・バーでのアルコール」「調理や畑仕事」など、利用者の個性や生活歴に配慮しながら、それぞれの楽しみや役割が日々持てる支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで過ごさないように、天気や体調に応じて散歩や買い物、ドライブ等の希望を取り入れ、外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	運営者や職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、家族にも説明しながら、事故等に注意して鍵をかけないようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回、消防署や地域住民の参加を受けて日中と夜間を想定して実施している。また、運営推進会議や懇談会では議題として話し合い、地域住民の参加協力を得るため文書も配布している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や嚥下状態に応じて食事形態を工夫し、また、必要に応じて医師とも相談しながら、必要な水分と食事が摂れるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい食堂やリビングの共用スペース、暖かい床暖房、また、季節感も取り入れた装飾など、利用者が居心地よく過ごせるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の希望により居室への荷物の持ち込みは自由であり、仏壇、オーディオ、テレビ、箆笥などの馴染みの品が持ち込まれた居心地のよい居室となっている。		